



2011年4月 (シャミナード年)

「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、
キリストを着ているからです」(ガラ 3, 27)

師の生誕250周年のこの月、 ギヨーム - ジョゼフ・シャミナード師の家族と共に



サン・フロン大聖堂

1) ペリグ(1761 – 1771):聖なる家族！

ギヨーム - ジョゼフ・シャミナードの家族は、多少陰の部分もありますが、その人間性とキリスト教的生活の質の高さにおいて印象的です。

父方の祖父：ジャン・シャミナード

ペリグとミュンダンの間にある村、サン・タスティエで彫刻家をしていました。

母：カトリーヌ・ベトン

ペリグの商人の娘で、その祖先はカトリックに改宗したスイスのプロテスタントです。(B Origines 1)

「私が聞いたところでは、師の母親は師に気高い心根を植え付けようとしたそうです。師が自分について話すのを耳にしたのはこの一度だけでした。師の証言は、母親の教えについて母親に感謝する手段だったのです。」(Témoignage de M.Enjugier, sm – Vasey p.21)

彼女は、とても敬虔な女性で、彼女の座右の書は、「良き死を迎えるため、また、病者に死を望ませるための教え」でした。彼女は、1794年9月、サン・ロランの息子の屋敷で亡くなりました。(B Or 1)

父：ブレーズ・シャミナード

商才に長けていて、上手に商業を営んでいたようです。だんだん大きくなる家族の必要に備えて、クロストル広場に小さな店を構えて、ガラス屋と織物屋のふたつの仕事をしながら、経済状態をより豊かにしていました。彼は、1799年3月4日、ペリグで亡くなりました。ギヨーム - ジョゼフがスペインに亡命している間のことでした。

右中央、ボナヴァンテュール通り
(旧フロワド通り) 32番、
シャミナード家の家



15人の兄弟姉妹

9人が夭逝し、6人が生存。

1. **ジャン・パチスト**(1745 – 1790) 長男で、1762年のイエズス会の廃止までイエズス会員でした。1771年に、ミュシダンのサン・シャルル学校の校長をした二人のうちの一でした。この学校で彼は弟に対して決定的な影響を及ぼして、霊的生活、修道生活に導くことになります。彼はそこで、共同体の分散の少し前に、聖人のように亡くなりました。

2. **ブレーズ**(1747 – 1822)

二日間のハンガーストライキをして、反対する父親を説得し、1762年にレコレのフランシスコ会に入りました。フランス大革命の間、イタリアに追放され、アシジで暮らしました。その後フランスに戻り、(ペリグの近くの) サン・タスティエで、助任司祭として忠実に司祭職を果たしました。そこで、1822年亡くなりました。

3. **リュクレース**(1750 – 1826)

結婚しましたが子供はいませんでした。ギヨーム - ジョゼフの代母。1780年、弁護士と結婚しましたが、結婚一年目にして夫が亡くなり、未亡人となりました。おそらく1810年、兄弟の家に行き、家の世話をしました。そして、1826年の死亡まで、兄弟と一緒に暮らしました。(B Or 1)

4. **フランソワ**(1755 – 1844)

父親の仕事を手伝い、織物屋を継ぎました。結婚して4人の子供をもうけました。しかし、妻が重病に陥りました。すると、妻の生存中に、年の差大きい若いセシルという使用人の女性と恋に落ちました。彼女との間に3人の子供をもうけたようです。妻の死後、セシルと暮らしましたが、さらにもうひとりの子供をもうけました。その後、彼女と民法上の結婚をして、その2ヵ月後教会で結婚式を挙げました。商売では彼はあまり成功しませんでした。何度か破産しました。(B Or 1) 兄弟の状況はシャミナード師にとって大きな心配事でした。フランソワの子供たちから、家族の現在の後裔が出ています。特に、その第3子、ソフィの後裔です。彼女はフランソワ (・ド) ララと結婚しました。

5. **ルイ (ーザビエル)** (1758 – 1808)、教区司祭。

ギヨーム - ジョゼフと一番結びつきの強い兄弟でした。ふたりはミュシダンで一緒に勉強しました。後になって、ふたりは、サン・シャルル学校の運営で長兄と一緒に助けることになります。ふたりは追放の地、サラゴサで再会しました。このふたりの兄弟はつねにとっても近い間柄でした。(B Or 1)

受洗

ギヨームは、誕生の当日、サン・シラン小教区の（1790年ごろ破壊された）教会で洗礼を受けました。ギヨームの名前は、おそらく母親の親族であるパン屋の代父から貰ったものです。彼の曾祖父もギヨーム・シャミナードという名前でした。ですから、この名前は家族の中ではよく知られた名前でした。（B Or 1.4）11歳の姉のリュクレースの代母でした。

「1761年4月8日、平民かつ商人ブレイズ・シャミナードとカトリーヌ・ベトン夫婦の実子かつ嫡出子であるギヨーム・シャミナードは、出生と同日に洗礼を受けた。代父はギヨーム・モロ、代母はリュクレース・マリ・シャミナードであった。二人はいずれも町に在住である。前記の洗礼は下に署名する代父ギヨーム・モロ、クロード・ジェの立会いのもと行われた。クロード・ジェ、署名の術の心得なく署名せず。サン・シランの主任司祭、デュボワ」

ギヨームはまた（3歳年上の）兄ルイと堅く結ばれていました。ふたりはともにペリグにある「Petite Mission（小さなミッション）」に通いました。そこで初期養成を受けたのでした。1769-70の間、ルイはミュシダンに勉強に行きました。そして、ギヨームはひとり「Petite Mission」に残りました。休みで帰って来るとルイは弟との遊びを中断してしばらくの間自分の部屋で一人つきりになることを始めました。ギヨームはルイに何をしているのかと尋ねました。ルイは、「ぼくはぼくのこと、ぼくの魂のことに専念しているんだ」と答えました。ルイは兄のジャンーバチストに念祷の仕方を教えてもらっていたのでした。ギヨームは自分も同じようにしたいと思いました。そして、事実、少し遅れて、ギヨームも兄のジャンーバチストに念祷の手ほどきを受けたのです。

堅信のとき、ルイは、イエズス会士で宣教師の影響を受けて、ザビエルの名前を取ることになります。堅信のとき、**ギヨームは自分のためにジョゼフの名前を選ぶことになります**。ヨゼフがマリアに一番近い人であったからです。

そして、このときから、ジョゼフの名前はまさしく**ギヨームの好きな名前、彼がいつも祝う名前**になります。（師の手紙の中で、師が3月19日にお祝いをし、この日にすべての共同体が師にお祝いを述べたことが見えます。手紙 89,191 及び 431 等を参照）（Belloch, *Origines*, 第1章）

2) サン・シャルルの生徒として、教師として（1771 - 1791）

彼はそこに20年留まります。そこは彼が人間的、キリスト教的人格形成をすることになる場所です。彼が最初のとても豊かで変化に富んだ使徒的体験をするのもそこです。そのことが彼の生涯を通じて助けとなります。兄のジャンーバチストは、すべての点において、彼の人生のこの時期に決定的な影響を与えました。



今日では姿を消した学校にほど近い通り。実際にはシャミナード兄弟は創立者ではありませんでしたが、学校の本当の発展と繁栄を可能にした人たちです。

学校は小さな神学校のようなものでしたが、経済的に支えるために、司祭職を目指さない生徒たちも受け入れていました。そして彼らは未来の神学生と一緒に教育を受けていました。(B Or 2.2)

ギョーム - ジョゼフがそこに生徒として入ったとき、兄ジャン - バチストが監督あるいは会計をしていました。もう一人の兄ルイは学生でした。ギョーム - ジョゼフは司祭職あるいは奉獻召命の考えを抱いてそこに入りました。彼は11歳になる前に初聖体をし、その信仰心によって際立っていました。

サン・クロードの司教、シャモン猊下は次のように証言しています：「皆さんの創立者はその信仰心において際立っていました。とても若く、12歳にして、ご聖体の祭壇の前でひざまづいて、彫像のように身動きすることなく何時間も過ごす姿が見られました。」(Vasey, Chaminade, p.42)

兄ジャン - バチストに念祷の手ほどきを受けました。ギョーム - ジョゼフはまたイグナチオの方法によって祈ることも学びました。(B Or 2.3)



ヴェルデレのノートル - ダム。
ギョームは、おとめマリアに帰せられる奇蹟的な快癒の後、感謝のために兄ジャン - バチストと一緒にこのご像の前に来て祈りました。

14歳になったとき、彼は志願者になりました。15歳でラテン語の勉強を終え、教師として受け入れられました。サン・シャルルの会則に従って一種の修練期(2年あるいは18ヶ月)をします。そして、兄ジャン - バチストと共に識別をした後、14歳か15歳で個人的な誓願を立てます。個人的な誓願ですので、サン・シャルル修道会との特別な繋がりはありません。これは、シャミナード師がその生涯において宣立した唯一の誓願です。(B Origines 2.3)

3) 幅広い使徒的養成(1776 – 1791)

1776 - 1778:会計の小さな仕事をして、兄ジャン・バチストの学校運営の手伝いをします。同時に、小さい生徒たちの「担任教師」あるいは補助教師をします。

1778 – 1782:ミュンダン (ジャン・バチストの指導の下)、ボルドー、そしておそらくパリ (1782 – 1783) で神学の勉強。

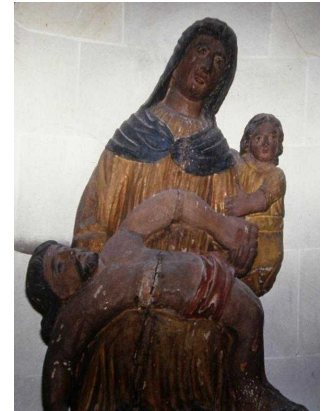
1785年5月14日：司祭叙階の可能性のある日付。

施設付き司祭：

ギヨームは、三つの職場で司祭職を果たします。

1. 学校で：ジャン・バチストが彼に割り当てた任務：霊的指導・召命の識別・秘跡の準備、を司祭として果たします。
2. ノートル・ダム・デュ・ロック巡礼所付き司祭として。ピエタタイプのノートル・ダム・デュ・ロックの像ですが脇に子供を抱えています。ギヨーム・ジョゼフの信仰心と霊性の靈感の源であったにちがいありません。

ノートル・ダム・デュ・ロック (15世紀) は今日サン・ジョルジュの小教区教会にあります。そのそばで師は、子供のころからしばしば祈りました。そして、後になって若い司祭としてミサをささげました。



3. 学校に隣接する病院で。この建物は現在でもあり、今は老人ホームになっています。



教師

1789年以降、数学、体育、(そしておそらく) 哲学の教師として。

会計

シャミナード師自身ララン師に書いています (手紙 III-837, 1836年4月26日) : 「私は、16歳から17歳にかけて、かなり大きな施設で監督の仕事をしました。私の最初の長 (おそらく兄ジャン・バチスト) とは一度も言葉を交わしたことはありませんでした。その施設は貧相ではありましたが、常に繁栄の度を増していました。」

(すでにペリグで商業を営んでいた) 兄フランソワが助言をしてくれて大いに助けてくれました。1784年、すでに見たように、ジャン・バチストは校長に、そして、ギョーム・ジョゼフは会計に任命されます。

未払い者がいて困難を抱えていました。(手元資金があまりありませんでした。) ギョーム・ジョゼフは財政状態の悪い施設を引き継いだのです。

彼は会計がどんなにやりがいのない仕事か分かっていました。後日、手紙に書いています(手紙 II-498,1830年1月20日):「いつも非難されるのはすべての会計あるいは監督の宿命です。大革命前もそれ以降もそうでした。」そしてさらに書いています(手紙 III-590,1831年5月10日):「私の考えでは、共同体で行うべき可能性のある職務の中でもっとも不愉快な職務です。この仕事を良心的に果たすためには、時として、大きな徳と心の強さが必要です。」

ミュシダン様相が変わりました。かつては、ミュシダンとボルドーを結ぶ道路沿いであって、立派な建物で、中庭と公園をともなったとても風通しのよい、とても健康的な学校でした。今では、科学と信仰心のためには最良の学校のひとつであり、大きな文化センターになっています。シャミナード兄弟のチームは、強く団結して、素晴らしいことを行っていました。三人の兄弟は、年を取った両親を呼び寄せてミュシダンに住ませたことも書き添えておかなければなりません。ブレーズ・シャミナードはその商業を息子のフランソワに譲り、司祭の三人の息子たちのそばに妻とともに落ち着きました。(B Or 2.5)

大革命に続いて、全てが不幸な結末になります。1791年復活祭には学校の閉鎖、その年の終わりにはボルドーへの移動ということになりました。



ペリグのサン・フロン大聖堂

祝うべき日付：2011年4月8日：マリアニスト家族の創立者、ギョーム・シャミナードの生誕と受洗の250周年記念日

[この資料は Eduardo BENLLOCH 師の書：En los orígenes de la Familia Marianista, SPM, Madrid, 2001 に負うところが大きい。今年読むべき推奨の本！]